

1 ゆれやすさマップ

関金地区(No.2) 1/15,000

【解説】
このマップは活断層による地震に加え、どこでも起こりうる比較的規模の小さな地震が直下で発生したことを想定して、倉吉市を50m四方の区域に分割し、最大震度を表示しました(最大震度についての考え方は、「このマップの作り方」を参照してください)。

【ゆれやすさの特徴】
地震による揺れは、河川沿いや、谷沿いなどでは比較的大きくなります。このマップを見て、お住まいの地域の地震に対する「ゆれやすさ」を確認して、地震に対する日頃の備えなどについて考えておきましょう。
このマップについては、引き続き②→⑤をご覧ください。

避難所リスト	
1 倉吉市立山守小学校	倉吉市関金町堀2163番地

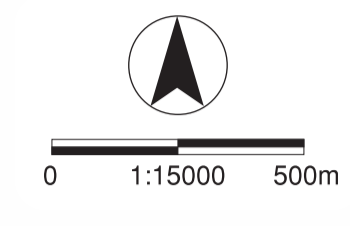
このマップの作り方

①大立・田代峠-布江断層による地震 (マグニチュード7.2)

②倉吉南方の想定断層による地震 (マグニチュード7.2)

③どこでも起こりうる直下の地震 (マグニチュード6.8)

断層



2 このマップの活用方法

その1

マップと「③凡例」を見て、わが家が建っている地盤のゆれやすさを確認しましょう。「④震度階級とその状況」を見て、わが家のゆれを想像してみましょう。

その2

「⑤地震に強い家になろう」に書かれているグラフを見て、わが家が建っている地盤のゆれやすさから、わが家が倒壊する危険性を知ることができます。たとえば地盤のゆれやすさが震度6強の場合、昭和56年以前に建てられた木造建物では全壊となる確率は10～80%となります。倒壊するおそれがある場合や不安を感じるような場合は、⑤にしたがって、耐震診断や耐震改修を行うようにしましょう。

その3

マップで避難路と避難所を確認し、家族、地域で避難路までの集合場所や避難経路、安否確認の方法などについて話し合っておきましょう。

避難路 避難所

3 凡例

震度7	震
震度6強	度
震度6弱	
震度5強	

避難所

避難路

※この避難路は、各地区で開催した災害回上訓練の結果などを参考にし、避難時の安全性を高めるために倉吉市が決定したものです。

----- 地区境界

4 震度階級とその状況

(出典：気象庁震度階級関連解説表、気象庁ホームページ)

<p>震度と状況</p>	<p>震度5強</p> <p>非常に恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。</p>	<p>震度6弱</p> <p>立っていることが困難になる。</p>	<p>震度6強</p> <p>立っていることができず、はわないと動くことができない。</p>	<p>震度7</p> <p>ゆれにほんろうされ、自分の意志で行動できない。</p>
---------------------	--	--	---	--

5 地震に強い家になろう

右のグラフに示すように新耐震基準(昭和56年)以前に建てられ、耐震改修を行っていない建物では、倒壊する可能性が高くなります。なかでもピンク色の点で示すように、昭和35年以前の木造建物では、震度6弱でも倒壊する可能性が30%近くあります。地盤のゆれやすさと建物の状態から倒壊のおそれがある場合や不安を感じる場合には、まずは耐震診断を受けましょう。

揺れの大きさと全壊被害の関係(木造建物)

凡例
旧築年(S35以前)の建物全壊率
中築年(S36～S55)の建物全壊率
新築年(S56以降)の建物全壊率

揺れの大きさと全壊被害の関係(非木造建物)

凡例
旧築年(S45以前)の建物全壊率
中築年(S46～S55)の建物全壊率
新築年(S56以降)の建物全壊率

※このグラフは地盤のゆれやすさと建物の全壊率の関係をあわしたものです。(出典：地震防災マップ作成のすすめ、内閣府)

まずは耐震診断を受けてみよう

倒壊のおそれのある場合や不安を感じる場合は、専門家による耐震診断を行きましょう。なお、倉吉市のホームページでは簡単な耐震診断を行うことができますので、活用してください。
(<http://www.city.kurayoshi.tottori.jp/gyousei/div/kensetsu/kenchiku/>)

耐震診断等の補助事業についての問い合わせ先
倉吉市建設部景観まちづくり課
電話：0858-22-8175